

主要生命保険会社の令和3年3月期決算の概要

1. 損益の状況

- 保険料等収入は、外国金利の低下や新型コロナの影響に伴う営業活動の自粛等による一時払外貨建て保険の販売が減少したことなどから、前年に比べ大幅に減少。
- 当期純利益(純剰余)は、販売減少に伴う代理店手数料の減少等により基礎利益が増加となったことに加え、有価証券売却損益の改善等によりキャピタル損益が増加したことなどから、前年に比べ増加。

(単位：億円)

	平成31年3月期	令和2年3月期	令和3年3月期	前年比
保険料等収入	307,500	282,509	261,747	▲20,762
基礎利益	37,072	36,145	38,111	1,966
キャピタル損益	▲4,630	▲7,477	4,293	11,771
臨時損益	▲4,101	▲6,756	▲11,800	▲5,043
特別損益	▲4,661	▲2,695	▲4,994	▲2,299
当期純利益(純剰余)	16,319	12,539	18,595	6,055

2. 健全性の状況

- ソルベンシー・マージン比率は、株価回復に伴い、その他有価証券評価差額が増加したことなどから、前年度末に比べ10.4%ポイント上昇。

(単位：%)

	平成31年3月期	令和2年3月期	令和3年3月期	前年度末比
ソルベンシー・マージン比率	990.6	994.5	1004.9	10.4Pt

(注) 日本生命、第一生命、明治安田生命、住友生命、太陽生命、大同生命、富国生命、大樹生命、朝日生命、ソニー生命、ジブラルタ生命、アクサ生命、アフラック生命、メットライフ生命、東京海上日動あんしん生命、第一フロンティア生命、三井住友海上プライマリー生命、プルデンシャル生命、かんぽ生命の19社を集計。